

曇雨天に対する農作物の技術対策

平成 29 年 8 月 16 日
農 業 技 術 課

8月上旬以降、曇雨天が続いています。今後10日間ほど同様な天候で推移する可能性が高くなっていますので、農作物の管理に十分注意してください。

関東甲信地方週間天気予報

平成29年8月15日16時35分 気象庁予報部発表

向こう一週間は、気圧の谷や湿った空気の影響で曇りや雨の降る日が多い見込みです。最高気温・最低気温ともに、平年並か平年より低い見込みです。降水量は、平年並か平年より多い見込みです。

1 週間天気予報（8月16日～8月22日）

8月16日5時 山梨県の週間天気予報

日付	16 水	17 木	18 金	19 土	20 日	21 月	22 火
山梨県 府県天気予報へ	曇時々雨 	曇 	曇 	曇 	曇時々晴 	曇時々晴 	曇時々晴
降水確率(%)	-/50/50/20	10/10/30/30	40	40	30	30	30
信頼度	/	/	C	C	C	C	C
甲府	最高(°C)	30	32 (29~34)	33 (31~37)	33 (29~37)	34 (30~37)	34 (30~37)
	最低(°C)	/	23 (22~25)	23 (22~25)	23 (22~25)	24 (22~25)	23 (22~25)
平年値	降水量の合計		最高最低気温				
甲府	平年並 8 - 29mm		最低気温		最高気温		
			22.8 °C		32.4 °C		

2 農作物の技術対策

(1) 果 樹

曇雨天が続き、日照不足傾向である。モモの着色不良やブドウでの食味低下、病気の発生が懸念されるので、次の管理を徹底する。

<ブドウ>

棚面の受光条件改善のため、新梢の誘引の見直しを行う。

同化養分の浪費を防ぎ、食味を向上させるため、旺盛な新梢を摘心したり、伸びている副梢を2～3枚残して摘心する。ただし、邪魔にならない副梢はそのままにしておく。

着色始めの極端な新梢の剪除は、逆に着色不良をまねきやすいので行わない。

着色遅延の恐れがある場合は、着色や形の悪い房を中心に、摘房の見直しを行う。

べと病の発生が心配されるが、成熟期まで葉を健全に保つため、防除暦を参考に慣行防除を徹底する。特に、欧州系ブドウでは防除を徹底する。

晩腐病の発生している園では、二次感染を防ぐため、ほ場を巡回し発病果粒は速やかに摘粒し、園外へ持ち出すか、土中に埋める。

シャインマスカットで、日焼け防止のためにクラフト傘等を使用している場合は、糖度の上昇を促すために、日照を確認しながらクラフト傘等を取る。

<モ モ>

着色向上のため、2～3日早めの除袋を行う。

樹冠内部の明るさの確保のため、徒長枝の剪除や葉摘みなどの新梢管理および支柱、枝つりの見直しを行う。

反射マルチの敷き直しや除袋直後からの反射マルチを行う。なお、天候の回復後は、反射マルチの照り返しによる日焼け果に注意する。

果実腐敗病の発生に注意し、防除間隔が開いていたり、発生が見られる場合は、使用基準を遵守して防除を行う。なお、発病果は土中に埋めるか、園外に持ち出す。

熟度が進んでいる場合は、着色にとらわれず、熟度優先で収穫を行う。

<立木果樹>

収穫後の立木類については、日照不足により翌年の結果枝の充実不良が心配されるため、樹冠内部や園全体が暗い場合は徒長枝の摘心や除去により明るさを保つ。明るさは樹冠内部に30%程度の光が入ることを目安とする。

(2) 野菜・水稻

<野菜>

ナス、トマト、キュウリ等の果菜類では、疫病、べと病、灰色かび病などの病害が発生しやすくなるので、病株、病葉、病果の早期除去と適切な薬剤散布により、病害発生防止に努める。

葉根菜類では、べと病や軟腐病などの病害が発生しやすくなるので、適切な薬剤散布により、病害発生防止に努める。

夏秋ナスでは、着色を促進するため密生部の枝を間引いたり、下葉の摘葉を行うとともに、追肥など適正な施肥管理に努め、草勢の維持を図る。

トマトでは、日照不足により結実が不安定となりやすいため、ホルモン処理により確実に着果させる。

<花き>

疫病、灰色かび病などの病害が発生しやすくなるので、病株の早期除去と適切な薬剤散布により、病害発生防止に努める。

鉢間隔を広げたり、追肥等の適正な施肥管理に努め、草勢の維持と促進を図る。

< 水稲 >

いもち病の発生がみられるほ場では、治療効果のある粉剤や水和剤等による防除を徹底する。

収穫は、出穂期からの日平均気温の積算温度 9 5 0 ~ 1 1 0 0 を目安に、ほ場ごとに黄化した籾の割合 (8 5 ~ 9 0 %) を確認し、適期に行う。

(3) 畜産

< 飼料作物 >

飼料作物については、排水不良が懸念されるほ場では、湿害対策のため排水の確保に努める。

天候に応じ、迅速に必要な作業が行えるよう、機械の共同利用・共同作業等の体制を整えておくとともに、良質な粗飼料が確保できるよう努める。